

宮本武蔵

— 剣の道 恋の道 —

一國一城の主になる夢を抱き参加した関ヶ原の合戦で、敗軍の落ち武者となった宮本村の武蔵(後の宮本武蔵)に、名僧・沢庵は文武両道の教えを説く。

姫路城主より宮本武蔵の名を与えられた武蔵は、武者修行のため天下の名門・吉岡道場に挑戦。道場の後継者を討ち果たすも、門弟たちに一乗寺で襲撃される。

数年後、剣を鋏に持ち替え、荒れ地を開墾する武蔵の姿があった。一乗寺での死闘で剣は人殺しの道具と考えるようになった武蔵は、幼なじみのお通との平和な暮らしを夢見ていた。

ある日、近くの村が野武士たちに襲われ、一度は剣を捨てた武蔵だが、村人を守るため立ち上がる。

自分にはやはり剣しかないと思いついた武蔵は、宿命のライバル佐々木小次郎との戦いに赴く決意を固める。



1 巖流島の佐々木小次郎との決戦 2 吉岡道場の門弟に追われる武蔵はお通との別れを決意 3 吉岡一門との死闘で二刀流に開眼 4 親友の又八と朱美に、剣を置いた理由を話す武蔵 5 野武士の首領・辻風天馬を2本の棒で打ち負かす



情熱と感動が冬を熱くする 奥州の市民劇

ことしもこの季節がやってきたー。

原作、脚本、キャスト、スタッフなどを市民自ら担う手作りの舞台が、市内各地で上演されました。

多くの市民が力を一つに作り上げた舞台は、笑いあり涙ありの感動の作品ばかり。どの会場にも多くの観客が詰め掛け、カーテンコールではキャストやスタッフに惜しめない拍手がいつまでも送られていました。

◆ 1月30日、1月31日
第8回奥州市民★文士劇
「宮本武蔵— 剣の道 恋の道 —」
江刺体育文化会館 (ささらホール)

◆ 2月21日
第16回奥州前沢劇場
「我レ開戦ニ反対セリ!
— 或るストックホルム駐在武官と妻の物語 —」
前沢ふれあいセンター

◆ 2月28日
第32回奥州胆沢劇場
「やまゆりの詩~石ころの道 その先に~」
胆沢文化創造センター

第16回 奥州前沢劇場

我レ開戦ニ 反対セリ!

— 或るストックホルム

駐在武官と妻の物語 —

前沢に生まれた信は、日露戦争で活躍した明石大佐に憧れ軍人の夢を抱く。庄屋の跡取りを望む養父母を説得し、陸軍士官学校から大学校へと進学。情報将校として軍人の道を歩み手腕を発揮する。

日中戦争が激化する中、「三国同盟を結んだドイツ・イタリアが第二次世界大戦を引き起こす。ストックホルム駐在武官の信は、ドイツの敗戦を予見し警告を本国に送るが、軍指導部はアメリカとの太平洋戦争を決断する。それでも信は、日本が滅びる危険があると「我レ開戦ニ反対セリ!」と電報を送るが...



1 息子の学校でも情報統制が進んでいると知り、開戦に向かっていくと実感する信 2 コミカルな掛け合いで笑いを誘った養父母 3 信はアメリカの原爆完成の報を聞き崩れ落ちる 4 帰国した家族と再会し、次の時代に向け決意を新たにす



第32回 奥州胆沢劇場

やまゆりの詩

〜石ころの道 その先に〜

明治に生まれ教員となった「まつを」は、嫁・母・教師・農婦の四重苦の中で、幼いわが子を失う。その経験から、農村女性の負担を減らし、子どもを安心して産み育てられるようにさまざまな生活改善を試みる。「配膳を飯台に、台所に流しやガッチャンポン (手押しポンプ) を作った」戦後、「まつを」は婦人たちのリーダーとして、女性が変わらなければ新しい社会は築けないと強く思い、さらなる生活改善を訴え実行していく。その姿に感銘した村の女性たちは、「まつを」を女性村会議員に担ぎ上げるのであった。



1 不慮の事故で亡くなった息子を抱き上げるまつを。生活改善を試みるきっかけになった 2 教壇に立つまつを。子どもたちも熱演を見せた 3 お膳を準備する負担を減らすため飯台を置いた 4 村会議員に当選し、仲間たちと「婦人会の歌」を歌うまつを (中央) 5 夫の追悼碑の前で思い出を語る晩年のまつを

